

平成29年度オープンレクチャー（調査・研究成果の公開）(シ08)

目 的 文化財情報資料部の研究成果の一部を外部講師を交えて広く一般に公開する。

- 成 果
1. 2017(平成29)年11月2日、3日の2日間にわたり、専門家はもとよりひろく一般からも聴講者を募集し、オープンレクチャー「かたちからの道、かたちへの道」を開催した。研究所内部より2名、外部より2名の講演を行った。それぞれの講演テーマは次の通りである。
 - ・江村知子（文化財アーカイブズ研究室長）「海を渡った日本絵画—ライブツィヒ民俗学博物館所蔵「四条河原遊楽図屏風」の紹介をかねて」
 - ・山本聡美（共立女子大学教授）「穢土としての身体—日本中世絵画に描かれた病と死体—」
 - ・小野真由美（主任研究員）「写された枇杷図—狩野探幽と江戸の再生（リヴァイバル）」
 - ・馬淵美帆（神戸市外国語大学准教授）「田楽を作る歌仙—伊藤若冲の歌仙図について」
 2. 外部からの聴講者は11月2日116名、3日109名の参加を得た。
11月2日の80名の回答者数のうち、「大変満足した」と「おおむね満足だった」を合わせ96.3%、11月3日の93名の回答者のうち「大変満足した」と「おおむね満足だった」を合わせ89.2%の回答を得ることができた。



オープンレクチャーの様子

研究組織 ○小林達朗、津田徹英、二神葉子、小林公治、塩谷純、江村知子、小野真由美、安永拓世、橘川英規、小山田智寛、田所泰（以上、文化財情報資料部）